

大阪の鋼鉄管最大13m隆起...専門家「地下水の圧力でありうるが、これだけ巨大な事例聞いたことない」



地中からせり上がった鋼鉄管（11日午前10時27分、大阪市北区で）＝近藤誠撮影



地中からせり上がった鋼鉄管の周囲にはアスファルトの破片が飛び散っていた（11日午前9時48分、大阪市北区で）＝近藤誠撮影

11日午前6時50分頃、大阪市北区鶴野町の国道423号で、地中に垂直に埋められた鋼鉄管（重約56トン、直径約3・6メートル、全長約30メートル）が道路から突き出しているのを110番でつけた警察官が確認した。鋼鉄管は市の下水道管工事で埋められたもので、高さは一時、地上13メートルに達した。

現場は阪急大阪梅田駅近くで、幹線道路「新御堂筋」の高架下。けが人はなかった。消防隊などが管内部に注水して重みで沈める復旧作業を実施し、午後4時時点で高さ約2メートルまで沈んだ。

市建設局によると、現場付近では大雨時の浸水対策として、既設の下水道管から雨水を取り込む新たな下水道管の設置工事が行われていた。鋼鉄管は二つの管をつなぐもので、1月21日から埋設工事が行われ、今月11日未明、鋼鉄管の内部にたまった地下水を排出する作業を終えた。上部に鉄板が敷かれてや人が通行できる状態で、誘導員が監視していたという。

市は「原因は不明」としているが、「地下水や地盤の緩みで、管に浮力が働くことは考えられる」と説明。施工業者への聞き取りや、地盤や地下水の状態を調査して原因を調べる。

インフラ工事に詳しい米田昌弘・近畿大名誉教授（土木工学）は「地下の構造物が周囲の地下水による圧力で押し上げられることは理論上ありうる。ただ、これだけ巨大なものが垂直にせり上がった事例は聞いたことがない。管の浮上への対策がどのように講じられていたのか、今後の調査を待ちたい」と述べた。

周辺の道路では通行止めが続き、11日夜時点で解除のめどは立っていない。近畿地方整備局によると、新御堂筋は安全確認のため一部区間で通行となり、最大約10キロの渋滞が発生した。

関連ワード

#大阪府

記事に関する報

読売新聞オンラインに掲載している記事や写真などは、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。読売新聞社など著作権者の承諾を得ずに、転載、インターネット送信などの方法で利用できません。

© The Yomiuri Shimbun.